

第26回 サル痘に関する関係省庁対策会議幹事会

日 時：令和5年4月7日（金） 14：30

議 題：サル痘患者の発生について

資料1：報道発表資料（厚生労働省・沖縄県）

※厚生労働省、沖縄県の本症例に関する報道発表資料です。

報道関係者 各位

令和5年4月7日

【照会先】厚生労働省 健康局 結核感染症課
感染症情報管理室長 今川正紀（内線 2389）
課長補佐 杉原淳（内線 2373）
（代表番号） 03（5253）1111
（直通番号） 03（3595）2257

サル痘患者の発生について

本日、以下の男性1名について、検査の結果、サル痘の患者と確認されたことが、沖縄県から報告されました。（別紙1：沖縄県プレスリリース）

我が国では、サル痘は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）において、4類感染症に指定されており、届出義務の対象となっています。

患者に関する情報は、以下のとおりです。

年代	性別	症状	医療機関 受診日	居住 自治体 (居住地)	海外 渡航歴	その他
40代	男性	発熱、発疹、 咽頭痛	4月6日	沖縄県	なし	・患者の状態は安定している。

報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。医療機関への直接の取材や問い合わせはお控えください。

国民の皆様へのメッセージ

サル痘は、サル痘ウイルスによる急性発疹性疾患です。主にアフリカ大陸に生息するリスなどのげっ歯類が自然宿主とされており、感染した動物に噛まれたり、感染した動物の血液、体液、皮膚病変（発疹部位）との接触による感染が確認されています。主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む）、患者と近くで対面し、長時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等により感染します。これまでアフリカ大陸の流行地域（アフリカ大陸西部から中央部）で主に発生が確認されていましたが、2022年5月以降海外渡航歴のないサル痘患者が欧米等を中心に世界各国で確認されています。

サル痘の潜伏期間は6～13日（最大5～21日）とされており、潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0～5日続き、発熱1～3日後に発疹が出現、発症から2～4週間で治癒するとされています。

発熱、発疹等、体調に異常がある場合には身近な医療機関に相談するとともに、手指消毒等の基本的な感染対策を行ってください。

海外からの帰国者は、体調に異常がある場合は、到着した空港等の検疫ブースで検疫官に申し出てください。帰国後に症状が認められた場合は、医療機関を受診し、海外への渡航歴を教えてください。

なお、海外では、サル痘の予防に対しては、天然痘ワクチンが有効であるとの報告がなされており、ウイルスへの曝露後4日以内の接種で感染予防効果が、曝露後4～14日以内の接種で重症化予防効果があるとされています。国内で承認されている天然痘ワクチンについては、令和4年8月2日にサル痘の予防への適応が追加で承認されたところであり、国内において、接触者の方に対して必要に応じて投与するための体制を構築しています。

マスコミ各位

令和5年4月7日（金）

沖縄県保健医療部ワクチン・検査推進課 感染症予防班

サル痘患者の発生について（県内1例目）

県内の医療機関から管轄保健所にサル痘の疑いがある患者の報告があり、県衛生環境研究所にて検査した結果、サル痘の陽性が判明し、4月7日に医療機関から管轄保健所に発生届がありました。

報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。また、医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控え下さい。

1 患者情報

年 代：40代

性 別：男性

居住自治体：沖縄県

症 状：発熱、発疹、咽頭痛

届 出 日：2023年4月7日

海外渡航歴：なし

患者の状況：状態は安定しています

2 サル痘について

サル痘は、サル痘ウイルス感染により発熱、頭痛、リンパ節腫脹等をおこす急性発疹性疾患です。感染症法では4類感染症に分類されています。

1970年にヒトでの感染が発見されて以来、中央アフリカから西アフリカにかけて流行していましたが、2022年5月以降、欧州や北米等で報告が相次いでいます。

国内では、感染症発生動向調査において、集計が開始された2003年以降、これまで患者の報告はありませんでしたが、2022年7月25日に国内1例目となるサル痘患者の報告がありました。その後散発的に発生が報告されていましたが、2023年に入り患者の報告数が増加しています。2023年4月4日時点で95例の患者等が報告されています。

〈症状〉

潜伏期間は通常6～13日（最大5～21日）で、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、発熱の1～3日後に発疹がみられます。

多くの場合自然軽快しますが、小児や患者の健康状態、合併症などにより重症化することがあります。

〈感染経路〉

主に感染しているヒトの皮膚の病変・体液・血液との接触（性的接触含む）により感染します。また、患者との接近した対面での飛沫への長時間の曝露により感染する可能性があります。

〈感染に不安のある方へ〉

過剰に心配することなく、発熱、発疹等、体調に異常がある場合には身近な医療機関に相談するとともに、手指消毒等の基本的な感染対策を行って下さい。

医療機関を受診する際は、マスクの着用や発疹部位を衣服やガーゼで覆うなどの対策をして下さい。また、公共交通機関は避け、自家用車など他人との接触をなるべく避けられる交通手段を用いるようにして下さい。

3 参考

- 沖縄県ワクチン・検査推進課「サル痘」

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/vaccine/yobou/sarutou.html>

- 沖縄県感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報・月報 ～速報～」

疾病分類別報告数に、全国および沖縄県の報告数を掲載しています。

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html#syugepou>

- 厚生労働省「サル痘について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html

- 国立感染症研究所「サル痘とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/408-monkeypox-intro.html>